

# 「地域連携ネットワークを利用したがん患者副作用モニタリング管理の有用性の検討」へのご協力をお願い

—当院において飲み薬の抗がん剤を内服されていた患者さまへ—

研究機関名 岡山大学病院

責任研究者	岡山大学病院 薬剤部	教授	千堂 年昭
分担研究者	岡山大学病院 薬剤部	薬剤主任	鍛冶園 誠
	岡山大学病院 薬剤部	准教授	北村 佳久
	岡山大学病院 薬剤部	薬剤師	蔵田 靖子
	岡山大学病院 薬剤部	薬剤師	正岡 康幸
	岡山大学病院 薬剤部	薬剤師	中本 秋彦

データ提供機関

株式会社北園調剤薬局岡大病院前店 管理薬剤師 淡野 節

## 1. 研究の意義と目的

昨今、抗がん剤の治療の大きな流れとして、飲み薬で治療される方が増えてきました。飲み薬は注射剤の抗がん剤と比べて、副作用が少ないイメージがありますが必ずしもそうではありません。

注射剤で出てくる副作用とは違ったタイプの副作用も多く、その代表的なものに手足の皮膚が荒れたり、口内炎ができたりすることがあります。早期に発見し、対応をすることで継続して飲んでいくことが可能となりますが、発見が遅れてしまうことで副作用が治るのに時間を要してしまい、その間、抗がん剤を飲むことができなくなることも少なくありません。

そこで飲み薬の抗がん剤でがん治療を行っている患者さんの副作用に対して、病院薬剤師と薬局薬剤師とが患者様の情報を共有することで早期発見につながり、患者さんの抗がん剤の服用継続に良い影響を及ぼすかを検証していきます。その際に、病院または保険薬局のかかりつけ薬剤師より定期的にご自宅へ電話にてご連絡させていただき、副作用が出現していないかを確認させていただきます。その情報は安全対策を施したネットワークを介して病院薬剤師へ提供され、速やかな対応を行っていきます。

## 2. 研究の方法

### 1) 研究対象：

岡山大学病院でこれまでに経口の抗がん剤または分子標的薬で治療をされた経験のある患者さま

### 2) 調査期間：

平成 29 年 6 月の岡山大学研究倫理審査専門委員会承認後から平成 32 年 3 月 31 日まで

### 3) 研究方法：

当院において過去に飲み薬の抗がん剤で治療をされていた患者さまのカルテを調査させていただきます。

### 4) 調査票等：

カルテ調査では性別、年齢、発現した副作用、副作用によって内服する量が減量されたか、中断・中止をされたかを調査し研究に使用させていただきます。個人を特定できる内容は含まれていませんので、患者さまの情報などが漏洩することはありません。

**5) 情報の保護：**

調査情報は岡山大学病院薬剤部内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

本研究成果は個人を特定できない形で関連の学会および学術論文にて発表させていただく予定です。

この研究にご質問等がございましたら、下記までお問い合わせ下さい。本研究や本広告へのご対応がご自身で判断できない場合には、ご家族様（父母、祖父母、親権者、または成人の兄弟姉妹）がご判断されても不都合ございません。また、本件につきましてその他ご不明な点等がございましたら遠慮なくご連絡下さい。

ご自身やご家族の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としますので、平成31年12月31日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療棟病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

今後の医療の発展のために尽力したいと考えておりますので、何卒ご理解・ご協力の程宜しくお願い致します。

<問い合わせ・連絡先>

岡山大学病院 薬剤部

氏名：鍛冶園 誠

電話：086-235-7646（直通）